

『きみは愛されるために生まれた？』

'21/01/03

聖書箇所：ルカの福音書 10 章 25-37 節（新約 p.134）

今日は、新年最初の主日礼拝ということで、とても大事なことについて、今一度、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。…多分、皆さんは、「きみは愛されるために生まれた」というフレーズをお聞きになったことがあると思います。実は、この「きみは愛されるために生まれた」というフレーズは、ここ 10-15 年ほどで、多くの教会やクリスチャンたちが引用して、大変な人気を集めている言葉なのです。

私の知る限り、このフレーズは韓国の牧師先生が作詞・作曲されたゴスペルソングの一種で、その曲のタイトルが、この「きみは愛されるために生まれた」というもので…、この曲は、「韓国の俳優・ヨンジュンさんも気に入った！」という触れ込みがなされています。そういったこともあって、「この曲は、クリスチャンのみならず、韓国では知らない人は居ない！」というほどだそうです。この曲を聴いてみますと、大変きれいなリズムで…、多くの人たちの共感を誘いやすいような歌詞も手伝ってか、特に韓国において大ヒットしたということになっています。でも、そういったことは、ここ日本でも例外ではありません。

命題：果たして、私たちは、“愛されるために生まれた”のでしょうか？

そこで、今日ぜひ、皆さんと一緒に考えていきたいことは…、果たして、この「きみは愛されるために生まれた」というフレーズが、本当に聖書的なものなのかどうか？ということになります。正直言わせて、こういった礼拝の場で、こういうことを命題にして話すのは、あまり好ましくないと思います…。でも、あまりにも、こういった曲やフレーズが有名になってしまって、そのことの故に、多くのクリスト教会やクリスチャンたちが、この言葉に惑わされてしまっているように思えますので、今日はぜひ皆さんと、このことについて、一緒に考えてみたいと思います。私としては、かなりの勇気を出して、今日のメッセージをさせていただいています。

聖書の箇所は、私たちがかなり前に学んだ、ルカ 10:25-37 を選ばせていただきました。もちろん、このみことばは、“私たちが愛されるために生まれたかどうか”について書かれているわけではありませんので、そういったことに注意しながら…、このみことばが1番に教えようとしている内容を、皆さんと一緒に確認していきたいと思います。願わくは、今日、このメッセージを聴いてくださった皆さんが、何よりもまず、聖書のみことばに立ってくださって…、その上で、救いの恵みに預かることができ、ますます、神様に喜ばれる者として生きていけることを願うものであります。まずは、今朝与えられましたみことばの内、ルカ 10:25-28 までを読ませていただきます。

25 すると、ある律法の専門家が立ち上がり、イエスをためそうとして言った。「先生。何をしたら永遠のいのちを自分のものとして受けることができるでしょうか。」

26 イエスは言われた。「律法には、何と書いてありますか。あなたはどのように読んでいますか。」

27 すると彼は答えて言った。「『心を尽くし、思いを尽くし、力を尽くし、知性を尽くして、あなたの神である主を愛せよ』、また『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ』とあります。」

28 イエスは言われた。「そのとおりです。それを実行しなさい。そうすれば、いのちを得ます。」

I・“愛される”ではなく、愛する者となれ！（25-28 節）

まず、今お読みしましたみことばが教えてくれていますことは、私たちが“愛されているかどうか”ではなく…、自らが“愛する”者へとなりなさい！ということになります。そのことを、まずは、皆さんと一緒に確認していきましょう。

●近年におけるクリスト教会の傾向

もう、こういったことは、これまでに何度もお話ししてきましたが…、実は、ここ何年も、多くのクリスト教会では、「神の愛」というものを非常に強調すると言うか、あまりにも強調し過ぎる傾向にあります。実は、そのことに一役買っているのが先程紹介した、「きみは愛されるために生まれた」という曲であり…、このフレーズなのです。

そのことを見ていく前に、まずは今日のみことばの 25 節をご覧くださいますと、イエス様のところへ、ある律法の専門家がやって来て、イエス様のことを試してやろう！という少々おかしい動機から、次のような質問をしたということが分かります。それは、「何をしたら永遠のいのち…、つまり、救いを自分のものとして受けることができるでしょうか？」というものであります。この律法の専門家の動機が間違っただけであつたことは言うまでもありませんが…、でも、彼が発した「どうしたら、永遠のいのち…、つまり、罪の赦しである救いを受けることができますか？」という質問は、私たち人間にとって1番大切なことであり…、すべての人間が知らなければならぬ重要なテーマであります。

その質問に対して、イエス様は、こう返されました。「律法には、何と書いてありますか。あなたはどのように読んでいますか。」って…。すると、その律法の専門家は、「『心を尽くし、思いを尽くし、力を尽くし、知性を尽くして、あなたの神である主を愛せよ』、また『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ』とあります。」という風に答えます。それに対して、イエス様は、「そのとおりです。それを実行しなさい。そうすれば、いのちを得ます。」という風におっしゃって、この律法の専門家の理解が、あなたが間違っていたわけではない…、いや、むしろ的を射たものである！ということをお教えいただいています。

ここで、イエス様は、悪い動機から質問をしてきた律法の専門家のことを困らせてやろうとして、わざと意地悪な返答をされたわけではありません。…と言いますのは、ここは違う、また別の箇所でもイエス様は、同じような返答をされているからです。…例えば、マルコ 12 章、そこでは、また別の者がイエス様のところへ来て、「すべての命令の中で、どれが一番たいせつですか？」という質問をイエス様に対して投げかけます。すると、それに対して、イエス様が、「29 …一番たいせつなのはこれです。『イスラエルよ。聞け。われらの神である主は、唯一の主である。30 心を尽くし、思いを尽くし、知性を尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』31 次にはこれです。『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』この二つより大事な命令は、ほかにありません。」という風にお答えになられます。すると、それを聞いた者は、「先生。そのとおりです。『主は唯一であって、そのほかに、主はない』と言われたのは、まさにそのとおりです。また『心を尽くし、知恵を尽くし、力を尽くして主を愛し、また隣人をあなた自身のように愛する』ことは、どんな全焼のいけにえや供え物よりも、ずっとすぐれています。」という風に返します。その後、みことばには、こう記されてあります。「『イエスは、彼が賢い返事をしたのを見て、言われた。『あなたは神の国から遠くない。』』」（マルコ 12:34）って…。

このように、イエス様は、私たち人間が、①何よりもまず、真の神様であられる主を愛するということが、②そして、自分の隣人を自分自身のように愛する！ということが、最も重要で…、かつ、こういったことが、実は、私たちの救いとも深くリンクしている！関連している！ということをお教えいただいています。

よく私たち日本人は、信心する心が大切であって、その拝むべき対象にはあまりこだわらなくて良い…という主旨のことを言うことがありますが、しかし、聖書のみことばは決してそれは教えません。まずは、すべてを造られ…、すべてを御支配しておられる真の神様を…、この御方だけを信じ、この御方だけを全身全霊の愛でもって愛すべきことが大切である！ということをお、今日のみことばは教えてくれています。

近年、特に、ここ日本にあつては、自分が愛を実践する！ということよりも、自分が愛されている！ということをお覚するということがあまりにも優先されてしまっているのではないのでしょうか？それが、今日冒頭でお話ししたようなことです。そこで紹介した、「きみは愛されるために生まれた」という歌ですが、そ

の歌詞の内容は、こんな風になっています。「きみは愛されるため生まれた～。きみの生涯は愛で満ちている～。永遠の神の愛は、われらの出会いの中で実を結ぶ。きみの存在が私にはどれほど大きな喜びでしょう。きみは愛されるため生まれた。今もその愛受けている。」といったような内容です。

皆さんは、この歌詞をお聞きになって、どうお考えになられますか？確かに、「自分なんて、生きている意味が無い…。私は、誰にも愛されていないんだ…」なんて感じてしまっている人たちにとっては、この歌詞から慰められるということは分からないでもありません。また、確かに、聖書のみことばは、神様が最高の愛でもって、私たち人間のことを愛してくださっている！ということも教えられています。それは間違いのない事実です！

しかし、私がどうしても気になってしまうのは、「きみは愛される“ために”生まれた」という言い回しの、「～ために」という部分です。皆さんも、ご存じのように、この「～ために」という言葉は、何かの目的や理由を表わす場合に用いられる表現です。…じゃあ、天の神様は、私たち人間のことを愛の対象として、“愛するために”…、“そういった目的のために”造られたのでしょうか？もしも、そうだとしたら、もう私たちは造られただけで、天の神様が意図された目的を達しているはずですよ。…でも、そうじゃないでしょ？

確かに、造り主なる神様は、私や皆さんのことを愛してくださっています！イエス様の十字架は、そのことの決定的な証しでもあります。でも…、私たち人間は、“そのことのために”生まれてきたのでしょうか？つまり、神様によって造られたのでしょうか？…果たして、私たち人間は、ただ、神様から愛されるだけで良いのでしょうか？本当に、それだけで、私たちは目的を達していると言い得るのでしょうか？…くだいようですが、本当に、天の神様は、私たち人間のことを、ただ自分が愛するための対象として…、そのことを“1番の目的として”御造りになられたのでしょうか？

そのことの答えを、皆さんは、もうとっくにご存じのはずです。…私たち人間は、神様が愛するべき対象として…、それを1番の目的として造られたのではなく…、神のために…、“神の栄光を現すために”造られたのです！だから、エペソ 2:10 では、こう教えられていますでしょ？『私たちは神の作品であって、“良い行いをするために”キリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。』って…。また、こうも教えます、I コリント 10:31、『こういわけで、あなたがたは、食べるにも、飲むにも、何をするにも、“ただ神の栄光を現すために”しなさい。』そうでしょ？…今紹介したみことばには、『“ただ”神の栄光を現すためにしなさい！』と教えられておりましたが、原語では“すべて”神の栄光を現すためにしなさい！というような表現が使われています。「ただ」でも、「すべて」でも、言わんとすることはあまり変わりません。要は、神様の栄光を現わすということが1番であり、唯一の(最高の)目的である！ということです。…そうじゃありません？それこそが、私たち人間に与えられた…、1番の目的であったはずですよ。良いですか、皆さん！要は、私たち人間に何らかの義務があるのか？無いのか？という話なのです。

もしも、私たち人間が、ただ神様の愛の対象として、神様から愛されるために生まれたのなら、私たちには義務はありません…。ただ、ペットのように愛らしく、好き勝手に生きていけば良いのです。しかし、果たして、聖書のみことばは、そういったようなことを教えてくれているのでしょうか？例えば、ローマ書 1:18 には、「そのように、自分勝手に生きている私たち人間に対して、“天から、神の怒りが啓示されている！”と教えられてあるわけでしょ？…もしも、私たちが神様から愛されるために造られて、それだけである程度の目的を達成しているのなら、一体なぜ、天の神様が怒っておられるのでしょうか？

どうぞ、皆さん、この聖書を見てみてください！この分厚い聖書に書かれてある教えの多くは、私たち人間に対して、何度も何度も、繰り返して、「こうありなさい！こう生きていきなさい！」というような、具体的な指示を与えてくれているじゃないですか！…本当に、私たち人間は、「愛されるために生まれた！」なんて、軽々しく言い切ってしまうと良いのでしょうか？

●自分が「神の前に罪人である」ということを思い知るからこそ…

今日のみことばの 27 節にありますように、律法の専門家が、『心を尽くし、思いを尽くし、力を尽くし、知性を尽くして、あなたの神である主を愛せよ』、また『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ』とあります。と答えたことに対して、イエス様は、28 節で、『そのとおりです。それを実行しなさい。そうすれば、いのちを得ます。』とお答えになられました…。でも、本当に、私たち人間が、神様から与えられた律法を守り行なうことなどできるのでしょうか？

神は、その昔、旧約聖書を通して、私たち人間に、造り主であられる神様のことを示してください…、それと同時に、その神様が完全に聖い御方で…、私たちにも清くあるように願っておられることを教えてくださいました。それこそが律法です！ですから、ガラテヤ 3 章には、こういことが書かれています。『では、律法とは何でしょうか。それは約束をお受けになった、この子孫が来られるときまで、違反を示すためにつけ加えられたもの…、』(ガラテヤ 3:19)であるって…。また、こうも書かれています、『こうして、律法は私たちをキリストへ導くための私たちの養育係となりました。私たちが信仰によって義と認められるためなのです。』(ガラテヤ 3:24)って…。

確かに、神様は、律法という、数々の厳しい命令やそれを守るための理由や、逆に様々な罰則などをイスラエルの民たちに対して与えてくださいました。でも、それは、その律法の命令を守ることによって救われるためではなく…、私たちが、自分自身の罪や不完全さに気付くためのものでありました。私たち人間は律法を守ることによって…、自分の行ないによっては絶対に救われることができないのです！

このことは以前にもお話ししましたが…、ヤコブ 2:8 には、こう教えられています、『もし、ほんとうにあなたがたが、聖書に従って、“あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ”という最高の律法を守るなら、あなたがたの行いはりっぱです。』って…。もしも、私たち人間が、神様から与えられた数々の律法を1つ残らず守ることができ…、そうして、その律法の中でも最高の教えであり、律法の要約とも言える、自分の隣人を自分自身と同じように愛することができるなら、それは本当に素晴らしいことです！でも、本当に、そんなことができるのでしょうか？

実は、このヤコブ 2:8 で使われている、『もし…』(εἰ)という言葉は、確かに、物事のある・なしについて語る場合に使われる…、仮定を表す言葉なのですが、でも実は、ギリシヤ語には、そういった仮定の場合に使われる接続詞は2種類あって…、その1つは、そのことが実際に起こるかどうかわからない場合に使われます(ἐάν)。そして、もう1つの接続詞は、絶対にあるか…、あるいは、絶対に有り得ないか…、そういった場合にだけ使われるのです。

以前にも、お話ししたように、ここで使われている接続詞は、後者の方の…、つまり、絶対に起こらない場合に使われる言葉の方なのです。つまり、聖書のみことばが、どういったことを教えようとしてくれているかと言いますと、「私たち人間は、完全に、神様の律法を守ることなどできない！私たち人間は、あらゆる限りの努力や想像を絶するような厳しい修行を積んだところで、自分自身の力だけでは救われ得ない！」ということなのです。

では、先程の話に戻りますが、じゃあ、神様は、一体どうして、私たち人間が完全には守ることができないような律法の教えを与えられたのでしょうか？⇒ローマ 7:7 では、こう書かれています、『…律法によらないでは、私は罪を知ることがなかったでしょう。律法が、“むさぼってはならない”と言わなかったら、私はむさぼりを知らなかったでしょう。』って…。このように、神様は、私たち人間に対して、まず、律法を与えることによって、自分に罪があること…、自分には救いが必要であるということを教えてくださいました。

それと同じように、私たちも、子どもたちに…、あるいは、まだ福音のメッセージをご存じない方たちに対して、まずは、「私たちに罪がある！神様の裁きが待っている！」ということ伝えていかないといけないのではないのでしょうか？

「きみは愛されている！」ではなく…、「きみは愛されるために生まれた！」なんていうメッセージを発してしまうと、そこには、「あなたには何の責任も義務も無いんだ！あなたは、このままで良いんだ！」というような誤解を与えてしまう可能性があります。実際、「きみは愛されるために生まれた」という CD とセットになっていたトラクトには、私たちの罪に関する問題も…、あるいは、神様による裁きも…、当然、悔い改めの必要性なども、一切語られてありませんでした…。

そこにあった言葉をそのまま紹介させていただきますと、「あなたは愛される資格がある！神様は、あなたの存在そのものを無条件に愛しておられます。きみの存在が、神様にとってはどれほど大きな喜びでしょう！」というような…、聞いていて、本当に耳障りの良いようなフレーズでした。でも、私たちクリスチャンが、まだ、真の神様を知らない方たちに伝えるべきメッセージは、天から神の怒りが啓示されてある！ということよりも、「きみは愛されるために生まれた。あなたは愛されているんですよ！」というようなことで良いのでしょうか？

私が思いますのは…、確かに、そういったようなメッセージは、「自分には生きていく意味も無い！もう死んでしまいたい！」と思っているような人々には心地良いメッセージかも知れません。でも、例え、それにしたって、「きみは愛されるために生まれた！」というのは、言い過ぎであって…、余計な誤解を招いてしまうどころか、聖書が教えていない間違ったメッセージであると思います。…と言うのは、私たちは、ただ、神様から愛されるために生まれてきたのではなく、①神様の栄光を現わすために、②自分の意志ではなく、③神様のみこころによって、④神様からのちを与えられた存在であるからです。

いかがでしょうか？果たして、私たちは、神様のメッセージを誤りなく…、私たちの周りの人たちに伝えているのでしょうか？その前に、まず、私たちが、神様の恵みというものを正しく理解しているのでしょうか？あるいは、神様の教えを知るための努力を惜しんではいないのでしょうか？神様が、私や皆さんに願っておられることは、ただ単に、聖書的なメッセージを聞いて満足したり…、あるいは、聖書の知識を蓄えていたりすることではなく…、神様の愛を実践していくことであるはずで、そういったことが、今から見ていく今日のみことばの後半部分で教えられてあります。

II・自分以上に、他者に愛を実践しなさい！（29-37 節）

今日のみことばの後半、29 節以降では、どういったことが教えられてあるでしょうか？確かに、色々な表現ができるでしょうが、でも、この例え話を通して、イエス様が伝えたかったことは、「自分」を愛すること以上に、もっと周りの人たちのことを愛すること…、「他者」に愛を実践しなさい！ということではないでしょうか？どうぞ、今日のみことばの後半、ルカ 10:29-37 をご覧ください。

29 しかし彼は、自分の正しさを示そうとしてイエスに言った。「では、私の隣人とは、だれのことですか。」
30 イエスは答えて言われた。「ある人が、エルサレムからエリコへ下る道で、強盗に襲われた。強盗どもは、その人の着物をはぎ取り、なぐりつけ、半殺しにして逃げて行った。
31 たまたま、祭司がひとり、その道を下って来たが、彼を見ると、反対側を通り過ぎて行った。
32 同じようにレビ人も、その場所に来て彼を見ると、反対側を通り過ぎて行った。
33 ところが、あるサマリア人が、旅の途中、そこに来合わせ、彼を見てかわいそうに思い、
34 近寄って傷にオリーブ油とぶどう酒を注いで、ほうたいをし、自分の家畜に乗せて宿屋に連れて行き、介抱してやった。
35 次の日、彼はデナリ二つを取り出し、宿屋の主人に渡して言った。『介抱してあげてください。もっと費用がかかったら、私が帰りに払います。』
36 この三人の中でだれが、強盗に襲われた者の隣人になったと思いますか。」
37 彼は言った。「その人にあわれみをかけてやった人です。」するとイエスは言われた。「あなたも行って

同じようにしなさい。」

●イエス様が、律法の専門家に勧められたこと

今読んだ部分は、非常に有名で…、しかも、非常に分かりやすいので、詳しい説明は必要無いと思います。それと、当然のことですが、今読んだ、「良きサマリア人」の例え話は、明らかに、今日のみことばの前半と繋がっています。先程見た、律法の専門家に対して、「あなたの隣人を自分と同じように愛しなさい！愛を実践しなさい！」と教えてくださったイエス様が、その律法の専門家の質問に答える形で、その隣人とは、人種や好き嫌いなども関係ない！ということをお教えいただいています。

どうぞ、まずは、今読んだ、29 節をご覧ください。『しかし彼は、自分の正しさを示そうとしてイエスに言った。「では、私の隣人とは、だれのことですか。』』⇒この時、この律法の専門家は、自分の正しさを示そうと、自信を持ってイエス様に尋ねます、「では、私の隣人とは誰のことですか？」って…。恐らく、この律法の専門家は、自分の同胞であるユダヤ人たちに対しては、親切にしていたのでしょう。しかし、イエス様から予想外の返事が返ってきました。何と、イエス様は、人種や友好関係とは関係なく、困っている人に…、あるいは、助けを求めている人に愛を実践してやりなさい！ということをお教えいただきました。

実は、そういった教えは、当時としては考えられないことでした。…と言いますのも、当時のユダヤ人たちは、自分たちユダヤ人にだけ親切にすれば良いと考えていたからです。…だから、例えば、イエス様は、マタイ 5:43 で、こんな風におっしゃっておられます、『『自分の隣人を愛し、自分の敵を憎め』と言われたのを、あなたがたは聞いています。』』って…。これは、当時のユダヤ人たちが、自分たちは、自分たちの味方だけ…、つまり、同胞であるユダヤ人たちだけを愛したら良い…ということをお教わっていたからです。

しかし、イエス様は、それに対して、「いや、あなたの隣人とは、サマリア人であろうと、ユダヤ人であろうと関係無い！友好関係にしろが敵対関係にしろが、それも関係無い！ということをお教えいただきました。このみことばでは、明らかに、神様に仕えていたはずの祭司やレビ人たちと、サマリア人とが対比されています。常日頃、神様に仕えてはいても…、あるいは、聖書のみことばを学び、みことばに通じていても…、では、実際に、神様の(アガペーの)愛を実践できているかという、それは別問題です。残念ながら、彼らは単なる知識だけで…、それが身につけていなかったのです。こういったことが、現実には数多く起こり得ます…。

ここ 37 節でも、イエス様は、『あなたも行って同じようにしなさい。』つまり、憐れみをかけてやりなさい！神の愛を実践しなさい！ということをお教えいただいています。…このように、私や皆さんに対して、神様が期待しておられることは、神の愛を実践していくことです。…どうしてでしょうか？それは、私たちクリスチャンは皆、真の神様のことを知って…、その神様が私たちのことを最高の愛でもって愛してくださったことを知っているからです(Iヨハネ 3:16)。神様が、私や皆さんのことを信仰によって、そのように変えてくださったのです。今、私たちクリスチャンは皆、日々、キリストに似た者へと変えられていっているのです。…そうでしょう？

●現代に蔓延っている間違った風潮

今の、この現代は、キリスト教会に限らず、様々な思いを、他者ではなく、自分自身の方へ向けるべきことを教える傾向にあります。「まずは、自分自身を愛しなさい！まずは、自分自身が幸せになりなさい！…じゃないと、どうして、人を愛したり、人を幸せにしたりすることができますか！」って…。確かに、そういった論法は分からないではありません。しかし、私たちが、本当の意味で、自分を愛する(=認める、受け入れる)ことも、自分が幸せになることも、すべては真の神様を知って、真理を知って…、神様から救いをいただくことから始まっていくのです。

悲しいことに、現代では、聖書の教えを正しく伝えるはずのキリスト教会でさえ、間違った教えが蔓延ってしまっているというのが現状です。だから、Ⅱテモテ 4 章では、こう教えられています。『2 みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。寛容を尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。3 というのは、人々が健全な教えに耳を貸そうとせず、自分につごうの良いことを言うてもらうために、気ままな願いをもって、次々に教師たちを自分たちのために寄せ集め、4 真理から耳をそむけ、空想話にそれて行くような時代になるからです。』(Ⅱテモテ 4:2-4)⇒まさしく、ここで注意&警告されてある通り、この世の中は、自分にとって都合の良いことを語ってくれるメッセンジャーを好む傾向になっていきます。悲しいことに、そういった傾向は、キリスト教会においても同様です。

皆さん、どう思われます？…もしも、皆さんが、神様だったら？…あるいは、CS の教師だったら？もしも、皆さんが、「あなたは何のために生まれたと思いますか？聖書は、どう教えていますか？」という問いに対して、子どもたちが、「私は愛されるために生まれたんです！」と答えたら、丸をあげます？正解です！と言ってあげられます？

申し訳ありませんが、私は、自分の知る限り、聖書のどこを探しても、「このみことばは、きみは愛されるために生まれた！」なんていう理解(解釈?)に行き着くような聖書箇所を知りません…。皆さんは、いかがでしょう？…でも、何度も言うように、ここ日本においては、「きみは愛されるために生まれた」なんていうゴスペルソングが、ほとんどすべてのキリスト教会で賛美されてしまっているのです。…と言うのは、それが、あまりにも心地良いからです。また、悲しいことに、教会を牧会している牧師や教師たちが、しっかりと、聖書のみことばと向き合って、正しく解釈しよう！神様の御教えを正しく知りたいたい！というような…、あの使徒 17 章に出てくるベレヤの教会の者たちのように、しっかりと、語られたみことばと聖書の教えが合致しているかどうか、そういったことの検証をしないから分らないのです！

そうして、ますます、多くのキリスト教会は真理から逸れていってしまうのです。でも、だからこそ、私たちは、しっかりとみことばを…、みことばだけを学び、それを語っていくことが必要なのです。だから、前回の礼拝でも学んだように、私たちは、自分自身の信仰を吟味し、自分自身の罪や問題を悔い改めることが必要なのです。

どうか、八田西 CG の皆さんには、今後も時々厳しいメッセージを…、時には難しいメッセージを語ることもあるでしょうけれども、そういった点をご理解いただきたいと思います。…と言いますのは、私ではなくて…、天の神様が厳しい御方だからです！私ではなくて、イエス様が、厳しいことを教え…、そういったことを私や皆さんに期待しておられるからです。…でも、感謝なのは、私たちが偽の教えではなくて、真理を知って…、神様が、本当に私や皆さんを変えてくださったら、そういったことができるのです。…悲しいのは、長い間、キリスト教会に通っていても…、聖書のみことばを学んではいても…、そこで、神の真理を教えられていなかったがゆえに、本当には変えられていなかった者たちです。

どうか、今日、このメッセージを聴いてくださった皆さんには、「私は、自分の聞きたいメッセージを語ってくれる教会ではなく…、あるいは、自分の価値や自分の存在意義を認めてくれるかどうかではなくて…、しっかりと、純粋なみことばの教えを聴きたいのです！」という思いをもって、毎週毎週語られるみことばを、皆さんがしっかりと吟味してくださいますよう、お願いします。そうすることが、私や皆さんを始め…、この教会全体が霊的に成長していく原動力になっていくと思います。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。